

アジア・アフリカ地域研究研究科

- I 研究の水準 研究 12-2
- II 質の向上度 研究 12-4

I 研究の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1-1「研究活動の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）にグローバルCOEプログラム「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」を含む7件の大型の競争的資金を活用し、現地調査や共同研究の実施、若手研究者の育成、現地拠点の整備等を行っている。
- 第2期中期目標期間における科学研究費助成事業の採択状況は、合計404件（約7億400万円）となっている。また、合計で36件の受託研究・共同研究と19件の寄附金・助成金を受け入れている。
- 第2期中期目標期間における教員一人当たりの合計研究発表件数は、著書（単著・共著）1.1件、査読誌所収論文4.9件、国際会議報告6.1件、国内学会・シンポジウム報告6.5件となっている。
- 附属組織であるイスラーム地域研究センターや現代インド研究センターにより、研究拠点の形成と国際的ネットワークの構築に取り組んでいる。

以上の状況等及びアジア・アフリカ地域研究研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2-1「研究成果の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 学術面では、基礎的な研究と応用的な研究を結び付けることにより、地域の多元的な課題を解明しており、地域研究の細目において特徴的な研究成果がある。また、グローバルな視野に立って、個々の地域をより広い世界の中に位置付ける研究も実施している。これらの研究成果により、第2期中期目標期間において14件の賞を学外から受賞している。
- 特徴的な研究業績として、地域研究の「イスラーム世界の総合的・動的把握とイスラーム政治思想の現代的展開に関する研究」、「インドにおける暴力と民主主義」の研究がある。

- 社会、経済、文化面では、地域研究の細目において特徴的な研究成果がある。また、現代のアジア・アフリカの諸地域が抱える具体的な問題を取り上げ、国際的な貢献をしている。
- 特徴的な研究業績として、地域研究の「韓国軍のベトナム戦争参戦の記憶をめぐる韓越比較研究」、「タイの2011年大洪水に関する研究」がある。

以上の状況等及びアジア・アフリカ地域研究研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

なお、アジア・アフリカ地域研究研究科の専任教員数は29名、提出された研究業績数は6件となっている。

学術面では、提出された研究業績6件（延べ12件）について判定した結果、「SS」は3割、「S」は7割となっている。

社会、経済、文化面では、提出された研究業績2件（延べ4件）について判定した結果、「S」は10割となっている。

（※判定の延べ件数とは、1件の研究業績に対して2名の評価者が判定した結果の件数の総和）

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「研究活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- グローバル COE プログラム「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」（平成 19 年度から平成 23 年度）等、第 1 期中期目標期間（平成 16 年度から平成 21 年度）から継続して 2 件の競争的資金による研究活動や人材育成を実施している。第 2 期中期目標期間においては、日本学術振興会（JSPS）の頭脳循環を活性化する若手研究者海外派遣プログラム（平成 22 年度から平成 24 年度）等、新たに 5 件の競争的資金の採択により若手研究者の海外派遣による育成等を行っている。
- 附属組織として、イスラーム地域研究センターに加え、平成 22 年度に現代インド研究センターを設置している。これらのセンターにより研究拠点形成と国際的ネットワーク構築を進め、第 2 期中期目標期間において新たに 18 の海外教育研究機関との交流協定を締結しており、交流協定は合計 35 件となっている。

分析項目Ⅱ「研究成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 総合的地域研究の推進を目標とし、文理融合的・学際的研究に取り組むとともに、基礎研究と応用研究の接合によって、地域の課題を解明する研究を実施している。学術面では、「イスラーム世界の総合的・動態的把握とイスラーム政治思想の現代的展開に関する研究」、「インドにおける暴力と民主主義」の研究、社会、経済、文化面では「韓国軍のベトナム戦争参戦の記憶をめぐる韓越比較研究」、「タイの 2011 年大洪水に関する研究」といった地域研究に係る特徴的な研究業績がある。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における研究水準の結果も勘案し、総合的に判定した。